

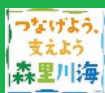
世代間交流プロジェクト 『森里川海ふるさと絵本』制作マニュアル ～自然の恵みを伝承し、地域を活性化する絵本作り～



『<森里川海ふるさと絵本>ありがとう あらかわー荒川区ー』より



環境省



つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト
<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/>



目次

はじめに	P 3
『森里川海ふるさと絵本』の特徴	P 4
プロジェクトの流れ	P 5
スケジュール	P 6
プロジェクト手順	P 8
【準備編】問題意識を共有し、実現に向かう体制づくり	P 8
【準備編】キックオフイベントで地域全体の活動にする	P 9
【調査編】懐かしい過去を掘り起こす「五感体験アンケート」	P 10
【調査編】五感体験アンケート結果の項目分けとカードづくり	P 11
【調査編】若者を巻き込んだヒアリング「聞き書き会」	P 12
【調査編】五感体験アンケートマップづくり	P 12
【調査編】聞き書き会の内容を確認する「街歩き調査会」	P 13
【調査編】史料・文献・写真などの資料収集	P 14
【制作編】絵本の制作	P 14
【活用編】活用方法の検討及び支援	P 17
【活用編】絵解き	P 18

平成 30 年度 世代間交流プロジェクト「森里川海ふるさと絵本」制作マニュアル

◆絵本の入手方法

環境省「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」ホームページ内、下記にて、ダウンロードできます。

<http://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/kyouseiken.html>



はじめに

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトとは

きれいな空気と澄んだ水、美しく心地よい緑、安全でおいしい食べもの。私たちの暮らしに欠かせないこれらの恵みは、森・里・川・海のつながりが生み出したものです。しかし今、そのつながりが急速に失われています。

大人も子どもも、都市も地方も、みんなで森里川海を支える社会をつくることができれば、森里川海からの恵みはいつまでももたらされ、私たちは心豊かに暮らせるようになります。そんな思いから、環境省では2014年12月に「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトを始動し、行政、関係団体、企業、専門家など様々な人たちと協力して、森里川海と地域を元気にする取り組みを行っています。

世代間交流プロジェクト『森里川海ふるさと絵本』とは

「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトの一環として、ふるさとの記憶から、自然の恵みと地域の暮らしとのつながりを呼び起こす『森里川海ふるさと絵本』の制作に取り組んでいます。

『森里川海ふるさと絵本』は、地域の皆さんの五感体験をもとに、昔の記憶を手繰り寄せながら、自然と人とのかかわりや地域の伝統や文化、風習について話し合い、その結果を絵本にして将来に残していくものです。地域が主体となり、老若男女を問わず多くの人に関わって一緒に作業することで、制作過程において世代間交流が生まれます。さらに、完成した絵本を子どもたちに読み聞かせることで、地域の将来を語り合うきっかけにもなります。このような取り組みを通じて、郷土を思う気持ちが深まり、自然の恵みを活かした地域の活性化のヒントが生まれることを期待しています。

2018年4月に閣議決定された第五次環境基本計画では、持続可能な社会のあり方として「地域循環共生圏」の概念が打ち出されました。地域にある森里川海などの資源を再生可能エネルギー、食料、観光資源として上手に活用することで、自立分散型の社会を目指すとともに、地域の特性に応じて他地域と補い支え合う考え方です。

「地域循環共生圏」を創造するには、足下にある森里川海の恵みを地域の記憶から掘り起こすことが大切です。『森里川海ふるさと絵本』づくりが、多くの世代を巻き込んで、ふるさとの未来を考えるきっかけとなれば幸いです。

『森里川海ふるさと絵本』の特徴

「過去を育てて未来を創る」

『森里川海ふるさと絵本』はある集落や地域を対象として、そこに生きる一人ひとりの思い出を集めて描く、地域の「生活物語絵本」です。生活を通して人びとのからだに刻み込まれた「五感体験」をもとに、地域に関わる様々な人々の対話と協力によって作品を作り上げる「心象図法」という手法を用いて描かれました。地域について人びとが語った無数のエピソードが描き込まれ、つまり「百聞を一見に」したと言えるこの絵本は、ただ静かに鑑賞するための絵本ではありません。地域の人びと自身が、この絵本に描かれた様々な場面を指さしながら、それぞれ自分の経験や自分が知っていることについて紹介したり、あるいは「これは何だろう」「何をしているところだろう」と隣の人に問いかけたりしながら、色々なことを語りあうことが大切です。「ふるさと絵本」はページを開いた人自身が「語り手」となり主人公となって、自分の思い出や想いを語ることで完成します。そんなふうにご利用しながら地域の皆で「使って育てる絵本」なのです。そのように、絵本を仲立ちとして地域の記憶を受け継ぎ、先人の「まなざし」と「いとなみ」を学ぶことで、郷土を愛する心や地域のめぐみに対する豊かな想像力が育まれます。

ところで、たとえば人間を「三枚おろし」にすると、「からだ」「こころ」「たましい」になります。「からだ」「こころ」「たましい」というのはそれぞれ、環境とのつながりによって成り立つ「物質」としての側面、人と人のつながりから成る「社会的存在」としての側面、時間とともに成り変わりゆく「歴史的存在」としての側面、というように、人間のありかたの3つの側面をあらわしています。言い換えると、人間には「自然環境＝空間」「社会＝人間（じんかん）」「歴史＝時間」という3つの「居場所」がある。広く複雑になった現代、普段の何気ない生活のなかでは、自分がいったいどんな自然に根ざしているのか、どういった社会や、あるいは自分を越えたどのような歴史に根ざしているのかが、なかなか分かりづらい。その分かりづらいところが、この絵本を見れば分かる。全体として直観できる。分かるだけでなく、教科書にも載っていないような一人ひとりの細やかな五感体験や日々の喜怒哀楽の思い出を詰め込みながら皆で絵本をつくる作業を通して、関わった一人ひとりが絵本のなかに、つまり地域の歴史のなかにそれぞれの居場所をつくりあげたのです。そのようなプロセス自体ひとつの「絵画ドラマ」です。どうか皆さん、この絵本をコミュニケーションの道具として、皆さん自身の物語の舞台として、地域の皆さん自身の手で地域の歴史を、あらたなドラマをつくる、すなわち「過去を育てて未来を創る」ことに活かしてほしいと思います。

制作マニュアルのねらい

環境省では2016年から2018年にかけて、荒川の上流と下流に位置する秩父市と荒川区で『《森里川海ふるさと絵本》ありがとう あらかわ』の制作に取り組みました。制作を通じて、世代間交流が生まれるとともに、森里川海のつながりを改めて感じることで、荒川を通じた地域間交流も促進されました。

本マニュアルは、秩父市と荒川区での実践を元に、「森里川海ふるさと絵本」の制作手順をわかりやすくまとめたものです。各地域の状況に応じてアレンジしながらご活用ください。どこにもない「森里川海ふるさと絵本」が全国で作られることを願っています。

プロジェクトの流れ

準備	<ul style="list-style-type: none">①体制づくり<ul style="list-style-type: none">・事前説明・勉強会・制作委員会の立ち上げ②キックオフイベント	目的及び問題意識の共有／「心象図法」の理解を深める／動けるチーム作り／絵本の編集者選定／絵や文章の書き手検討／地域の活動として告知
調査	<ul style="list-style-type: none">③五感体験アンケート実施<ul style="list-style-type: none">・ふるさと昔話を語る懇話会④五感体験アンケート結果の項目分けとカードづくり⑤聞き書き会⑥五感体験アンケートマップづくり⑦街歩き調査会実施⑧史料・文献・写真などの資料収集	情報収集活動／五感体験アンケートを分類して、地域の暮らしをイメージする／五感体験マップをもとに、街歩き調査会で現地を確認する／資料文献を収集し、地域の歴史を調査する
制作	<ul style="list-style-type: none">⑨絵本の制作<ul style="list-style-type: none">・構図構成の検討・原画の制作・文章の制作・小学生の絵画募集（※未来の地域の姿）⑩絵本の編集・印刷	絵本の情報を整理／コマ絵描き／下描き／原画等必要箇所追加発注／「未来の地域の姿」の表現方法確認
活用	<ul style="list-style-type: none">⑪活用方法の検討及び支援<ul style="list-style-type: none">・読み聞かせ技術研修・学校への配布⑫完成披露イベント	地域での活用を検討する

スケジュール

荒川区と秩父市の例

荒川の自然の恵みを生かす世代間交流プロジェクト工程表(秩父、荒川ふるさと絵本づくり)
平成28年9月～平成31年3月

		平成28年度						平成29年度														
		9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
絵本づくりIN秩父市	準備	① 体制づくり	→																			
		・事前説明・勉強会	◎	◎	◎	◎	◎															
		・制作委員会の立ち上げ					◎															
		② キックオフイベント					◎															
	調査	③ 五感体験アンケートの実施	→																			
		・ふるさと普話を語る懇話会										◎	◎									
		④ 五感体験アンケート結果の項目分けとカードづくり																				
		⑤ 聞き書き会															◎	◎	◎			
	制作	⑥ 五感体験アンケートマップ作り																				
		⑦ 街歩き調査会															◎	◎	◎			
		⑧ 史料・文献・写真など制作資料収集																				
		⑨ 絵本の制作																				
活用	⑩ 絵本の編集・印刷																					
	⑪ 活用方法の検討及び支援																					
	・読み聞かせ技術研修																					
	・学校・図書館等へ配布																					
⑫ 完成披露イベント																						
絵本づくりIN荒川区	準備	① 体制づくり	→																			
		・事前説明・勉強会	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎											
		・制作委員会の立ち上げ										◎										
		② キックオフイベント												◎								
	調査	③ 五感体験アンケートの実施	→																			
		・ふるさと普話を語る懇話会																				
		④ 五感体験アンケート結果の項目分けとカードづくり																				
		⑤ 聞き書き会																				
	制作	⑥ 五感体験アンケートマップ作り																				
		⑦ 街歩き調査会																				
		⑧ 史料・文献・写真など制作資料収集																				
		⑨ 絵本の制作																				
活用	⑩ 絵本の編集・印刷																					
	⑪ 活用方法の検討及び支援																					
	・読み聞かせ技術研修																					
	・学校・図書館等へ配布																					
⑫ 完成披露イベント																						
連絡会								◎					◎		◎		◎					

平成30年度													備考
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
													秋父市環境部環境立市推進課協力
													秋父まるごと博物館・秋父神社・秋父農工科学高校・教育委員会・青年会議所
													キックオフイベント迄に立ち上げ
													秋父市歴史文化伝承館1月22日(日)
													キックオフイベント参加者、懇話会参加者
													テーマを決め2回開催 6月17日、8月5日実施
													カードは聞き書き会のワークショップに利用する
													秋父地場産センター、秋父神社 10月21日、11月12日 12月17日 秋父農工科学高校生参加
													下絵構想の資料
													秋父地場産センター、秋父神社 10月21日、11月12日 12月17日 秋父農工科学高校生参加
													過去の写真、写真集、文献、史料
													編集者は準備段階から参加
													秋父市歴史文化伝承館 下絵検討会 絵本化する題材のリスト作成 絵師:石橋城呉氏 原画完成予定7月完成11月
													作家:大崎悌造 文章完成12月
													秋父市全小中学生の夏休み課題として取り上げてもらう 教育委員会協力
													編集2月スタート 印刷業者12月選定
													印刷完了2月 配布計画立案
													読み聞かせ、語り部人材育成、スキルアップ
													秋父市環境部環境立市推進課協力
													自治体への贈呈式 シンポジウム、2月24日(土)
													荒川区地域文化スポーツ部、自治総合研究所協力
													荒川コミュニティカレッジ、シルバー大学、町会
													キックオフイベント迄に立ち上げ
													ゆいの森あらかわ 7月22日(土)
													キックオフイベント参加者、懇話会参加者
													各地区ふれあい館 南千住、荒川、町屋、尾久、日暮里 5地区で実施
													カードは聞き書き会のワークショップに利用する
													ゆいの森あらかわ 都立高専生参加
													下絵構想の資料
													ゆいの森あらかわ 都立高専生参加
													過去の写真、写真集、文献、史料
													編集者は準備段階から参加
													サントピア荒川 下絵検討会 絵本化する題材のリスト作成 絵師:荒川コミカレ同窓生 原画完成7月
													荒川区立第六日暮里小学校
													文章作成:荒川コミカル卒業生 完成7月
													編集2月スタート 印刷業者12月選定
													印刷完了2月 配布計画立案
													読み聞かせ、語り部人材育成、スキルアップ
													荒川区地域文化スポーツ部、自治総合研究所協力
													自治体への贈呈式 シンポジウム 3月10日(土)
				◎	◎	◎							◎ ◎

【準備編】問題意識を共有し、実現に向かう体制作り

まずは、「森里川海ふるさと絵本」づくりの取組体制を作りましょう。最終的な目標である、ふるさとの豊かな自然とその恵みを再認識し、それを持続的に活かす地域社会づくりにつながるために、地域の多様な役割の方と一緒に取り組むことが大切です。具体的には、環境問題に取り組んでいる団体、地域の歴史・文化を学ぶ団体、子どもを対象に活動している団体、町会連合会、教育委員会など学校関係者、地元神社やお寺等が対象となります。また、絵本の原画を制作する際、地域美術愛好家団体などの協力を得ることも必要です。原画制作は時間を要するので、体制作りの段階で、編集者や原画制作者を決めておくといいでしょう。このような団体で「ふるさと絵本制作委員会」を構成します。その中から核となっていただけ団体やリーダーとなっていただけの方を見つけ出し、全体の進行をお願いすることが大切です。

秩父市の場合は、(一社) 鎮守の森コミュニティ推進協議会が「森里川海ふるさと絵本づくり」の意義目的を説明しながら、積極的に地域の人に呼びかけた結果、NPO 団体の「秩父まるごと博物館」が活動の中核となりました。また、荒川区の場合は、荒川コミュニティカレッジの「環境美画グループ・絵画同好会」「劇団コミカレ」「荒川しり隊」の各グループが中核となって活動しました。具体的には、「秩父ふるさと絵本製作準備委員会（同実行委員会へ発展）」「荒川ふるさと絵本制作準備委員会（同）」として、行政の協力を得ながら話し合いを重ね、世代の枠を広げて活動していきました。

【準備編】キックオフイベントで地域全体の活動にする

「森里川海ふるさと絵本づくり」は、地域コミュニティにおける世代間交流と地域の自然の恵みの再発見、及びその伝承を図る手段の一つです。世代間交流により、過去の暮らしを振り返るだけではなく、現在、そして未来の暮らしを見据えて、自然との関わり方や暮らし方を、地域のみんが考えることが大事です。

そこで、「ふるさと絵本制作委員会」が出来たら、キックオフイベントなどを開催し、「森里川海ふるさと絵本づくり」の意義や手順を知ってもらい、多くの皆さんに直接的・間接的に参加し、協力してもらえそうな機運をつくりましょう。

秩父市と荒川区のキックオフイベントでは、この取り組みが楽しい活動であることを体験させるための参加者によるワークショップを行いました。グループごとに、自然や文化、暮らし、懐かしい遊びなど「五感体験」を言葉にして紙の円卓に書き出し（通称：えんたくん）、語り合いました。

<えんたくんワークショップ>



荒川の自然の恵みを生かす 世代間交流プロジェクト

あの頃を思い出して 皆で絵本を作りませんか？

今回の荒川ふるさと絵本づくりは、環境省が取り組む「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトの一環です。次世代に荒川の自然や歴史や文化を語り継ぎ、荒川区への愛郷心を育むと共に、豊かな未来をみんなで築き上げようとするような絵本を一冊につくりましょう！

7月22日 土曜日 13:30 ~ 16:30

荒川区絵本づくり キックオフイベント

- ◆場所/ゆいの森あらかわ(ゆいの森ホール)
- ◆定員/100名(参加費無料・申込順)
- ◆申込/メール・FAX・ハガキにてお申し込みいただけます【7月14日(金)〆切】
※記入事項①氏名②住所③電話④イベント名
※荒川コミュニティカレッジ事務局 荒川絵本づくり宛
◇メール: gekidan-komikare@tcn-catv.ne.jp ◇FAX: 03-5615-4885
◇ハガキ: 〒116-0002 荒川区荒川1-1-1 サンパール荒川 6階
◇問い合わせ: 03-5615-8091(荒川区ふるさと絵本制作委員会設立準備委員会)

◆プログラム(予定)

第一部

- ◇開会挨拶 / 西川太一郎: 荒川区長
- ◇趣旨説明 / 「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクト 中井徳太郎: 環境省大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部長
- ◇特別講演 / 「語り伝えたい荒川区の自然と暮らしと文化」野尻かおる: 荒川ふるさと文化館館長

第二部

- ◇挨拶 / 園田 稔: 秩父神社宮司 京都大学名誉教授
- ◇講演 / 「記憶で地域がよみがえる」上田洋平: 滋賀県立大学助教
- ◇ワークショップ / 「語り伝えたい荒川区の自然と暮らしと文化」

主催: 荒川区ふるさと絵本制作委員会設立準備委員会 共催: 環境省・(一社) 緑の森コミュニティ推進協議会 後援: 荒川区 協力: 荒川コミュニティカレッジ

【調査編】懐かしい過去を掘り起こす「五感体験アンケート」

「森里川海ふるさと絵本」は、地域の皆さんの五感の体験から生まれます。

「目に浮かぶ、懐かしい風景」、「耳に残る音」、「なつかしい匂い」、「蘇る感触（手触り・肌触り）」、「思い出の味」の五感の体験をできるだけたくさん集めましょう。

五感の体験を呼び起こすために、ふるさとの懐かしい過去を体験に基づいて地域の年長者にお話をしていただく懇話会を開催するのが効果的です。お話を聴いたり、参加者同士で会話したりすることで、過去の記憶が蘇ります。それを、「五感体験アンケート」に記入していきます。

「五感体験アンケート」は、懇話会開催案内とともに郵送したり、キックオフイベントやその他のイベント、地域の会合などで配布して、地域の皆さんから多く集めることが肝要です。

秩父市では、テーマを絞って話していただく懇話会を2回開催し、荒川区では、5地域にわけて地域の自然、暮らし、文化、遊びをテーマに懇話会を5回開催しました。（例：「語り伝えたい秩父の自然と懐かしい遊び」、「荒川区ふるさと昔話を語る南千住地区懇話会」等）

＜秩父市の五感体験アンケートの一部＞

秩父のふるさと五感体験アンケート「キックオフイベント」回答	
以下は秩父絵本づくり五感体験アンケートの回答です。あなた自身にはどんな思い出があるでしょうか。町内や家庭、山々や田んぼ、畑や自然のなか、神社やお寺や学校といった地域内の色々な場所で、春夏秋冬、朝昼晩、毎日の暮らしや遊び、家事育児、あるいはいろんなお祭りや各種行事のときに体験したことにはどんなものがあったでしょうか。ご自身の体験を振り返って、どんなことでもいくつでもお書きください。 以下は1月22日キックオフでの回答の抜粋であり、あくまで参考です、皆さんご自身の体験をお教え下さい。	
1. 目に浮かぶ、なつかしい風景 <ul style="list-style-type: none">朝の武甲山の雲長い貨物列車雑木林に積もった雪景色。武甲山から眺めた芝の稲庭。麦畑、麦ふみの風景大通りを走る荷車。長い貨物列車きれいな空気の星空おかいこ、ひきりをひろい回転まぶしにいでて、まゆにする。……など。	2. 耳に残る音 <ul style="list-style-type: none">さむい夜の屋台ばやし。冬の火花の音正午の武甲山のはっぱ。夕方のヒグラシの鳴き声。秩父音頭。夜祭の賑わいの音。機械の音。……など。
3. なつかしい匂い <ul style="list-style-type: none">崩玉のにおい、蚕のにおい。蚕の繭を煮る香り、においの臭さ。かやの匂い。武甲山の石灰の匂い。カエデの木材による匂い。畑の人糞の匂い。お茶づくりお茶を囲炉裏でいる匂い。……など。	4. 蘇る感触（手触り・肌触り） <ul style="list-style-type: none">秩父銘仙の手ざわり。井戸水の温かさ。じゃがいもほりの土の感触。大滝の流れる川に手で触った感触。沢で捕まえたウナギを握る感触。みそのあしの感触。手づかみで魚取りした感触。……など。
6. 印象深い方言や言い回し <ul style="list-style-type: none">「ねっくそをきる」「涙をつるって」「えんでんべえー」「よってがっせ」「ようだなむし」……など。	5. 思い出の味 <ul style="list-style-type: none">道の辺の雑草の味、よもぎ、ずかんぼ。大鍋で作るおっきりこみの味。あけびの味。川魚・アユなどの香ばしい味。囲炉裏で焼いたもちまんじゅう、焼き芋麦飯味。たらし焼きレーシの味……など。

【調査編】五感体験アンケート結果の項目分けとカードづくり

集まった「五感体験アンケート」から、1言葉・1文章ごとにカードに記入し、項目に分類します。これは、地域の自然の恵みや、懐かしいふるさとの暮らしや文化、仕事や遊び、祭などを年長者に話してもらう「聞き書き会」の準備作業になります。

秩父市の場合は、大分類を「自然」「暮らし」等、小分類を「山」や「川」及び「食」や「家事」「動物」「植物」等に設定して、整理し、その中から「聞き書き会」のキーワードを決めました。

＜秩父市五感体験アンケート項目分類＞

山

- ・雄大な武甲山
- ・朝の武甲山
- ・武甲山のはっぱ
- ・桜木を切り倒した時の木くずの香
- ・武甲山熊倉山に振った初冠雪
- ・奥地秩父連山の山並み
- ・荒川の魚釣りの光景
- ・昔の武甲山の姿
- ・武甲山の雪化粧した雄姿
- ・昔の武甲山
- ・無傷の武甲山
- ・武甲山の雄姿
- ・昔の武甲山の姿
- ・朝の武甲山の雲海
- ・山道側のぐみを取って食べた味

川

- ・池に、置き針を仕掛けた。翌朝、引き上げに行った。大きなウナギがかかっていた。つかんだが、ぬるぬるして落ちてしまった。
- ・沢で捕まえたウナギを握る感触
- ・？採りに母親の手に縋って渡った川の水の冷たさ
- ・台風の時荒川の洪水が続いた
- ・荒川の濁流が大きな波となって下るさま
- ・川に流れ込む小川の音
- ・溪流の水音
- ・雨上がりの沢を流れる水音
- ・長瀬の川に流れる音
- ・小さい頃初めて川に入って冷たい水の感覚と
- ・川の水冷たさ
- ・大滝の流れる川に手で触れる
- ・あかびら川にはカジカがいた
- ・澄んだ水、ゴロゴロした岩石、そば、うどん、鉾山
- ・川の流れ（急流）
- ・川の音
- ・初めて鮎を釣り上げた。感激して手に持ち匂いを嗅いだ。キュウリのような匂いだった。

材木が多く積まれた
土場の木の深い匂い

蚕が桑を食べる音、
まゆを作る音

小学校の子供たちの
遊ぶ声

子供の日 家族で川
原でした飯盒炊さん

麦かりのとき「ノゲ」
がついた時の感触

じゃがいもほりの
土の感触

桑の実の味

＜カード化された五感体験アンケート＞

【調査編】若者を巻き込んだヒアリング「聞き書き会」

若者が聞き手、年長者が話し手となって、世代間交流の場となる「聞き書き会」を行います。カード化された「五感体験アンケート」の中から一枚を選び、若者が年長者に率直に問いかけ、年長者の言葉を書き留めていくという作業です。これを時間の範囲内で繰り返します。ICレコーダーなど記録メディアを準備しておくといいでしょう。

進め方は参加人数に合わせて複数のグループを作ります。秩父市では、五感体験アンケートの大分類ごとにテーマを設け3回開催し、荒川区では2回開催しました。秩父市では秩父農工科学高校生が、荒川区では都立産業技術高専生が聞き手となって、懇話会で話をしてくれた年長者から話を聞きました。



【調査編】五感体験アンケートマップづくり

アンケートと「聞き書き会」で集まった情報を元に、「五感体験アンケートマップ」づくりを行います。あらかじめ模造紙に地域の白地図を描いて準備し、アンケートや聞き書きの内容がどの場所のことなのかを確かめながら、地図に落としていきます。「聞き書き会」の際に話し手に確認しながらマップをつくとより効果的です。

このマップを作ることによって、地域の全体像や特性がわかりやすくなります。

マップは絵本の下絵の参考にもなるものですので、重要な作業です。

出来上がったマップ上で同じ事柄をグーピングし、標題をつけることで下絵の構想がより鮮明に浮かび上がってきます。





【調査編】聞き書き会の内容を確かめる「街歩き調査会」

「聞き書き会」で聞き取った内容を、実際の現場で確かめるため、年長者がガイドをする「街歩き調査会」を行います。聞き書き会で話題となった懐かしい場所に行って内容を確認します。

秩父市では、荒川の河原、織物工場跡地、酒造会社、秩父神社などを歩きました。荒川区では、荒川土手のスーパー堤防や千住大橋、暗渠となった水路跡などを歩き、地区の町会代表者がガイド役を務めました。

荒川土手スーパー堤防見学



秩父市武甲正宗酒造見学



【調査編】史料・文献・写真など資料収集

「ふるさと懇話会」や「聞き書き会」に、過去の資料や写真を持参していただく呼びかけも必要です。特に写真は話をはずませるだけではなく、絵本づくりに有効な資料となります。文献や史料によって、記憶との相違を確認することができます。また、年長者が話してくれた地域のエピソードを実際の写真や文献で確認することで、参加者の興味も深まります。

秩父市では、植物の実や古い道具をもって参加された方もいましたし、荒川区では地域の古い写真集をもって参加された方がいました。

【制作編】絵本の制作

これまで収集した資料を基にして、地域の特徴をあぶり出し、編集者を中心にどんな内容にするのかを検討します。

まず、全体の体裁を固めます。判型、ページ数、用紙等々です。秩父市、荒川区のふるさと絵本では、24 ページ、ハードカバー、オールカラーで制作しました。

★構図構成の検討

絵本の構図・構成は、制作委員会で十分に検討し、編集者やプロのデザイナーとともに、台割や原画・絵コマの内容を決定します。

★原画の追加制作及び進捗状況の確認

台割に基づき、下絵の制作から構図の再検討を行い、絵コマの追加制作及び背景の確認をします。制作中の原画の進捗状況も確認します。

荒川区では、区を5地域に分けて、地域の人が地元の絵地図を手分けして描くことになったため、つなぎ合わせると荒川区全体がわかるように、あらかじめ、「荒川」の位置、幅、道路の幅、都電の線路幅などを統一しました。台割に沿って、五感体験アンケートの内容を絵コマとして1つひとつ描きました。

一方、秩父市では、地元の画家にすべての絵を依頼しました。両者ともこのプロジェクトのスタート時から参加してもらっています。

原画の出来上がりの確認も随時行います。

★文章の制作

絵と文章のバランスは絵本の印象を大きく左右します。可能であれば、プロのデザイナーやライターのをかりましょう。

秩父市では、プロのライターに五感体験アンケート等すべての活動の記録を伝えて文章を作成していただきました。荒川区では、地域人形劇団体が原画である5地区の絵地図や一つひとつの絵コマの中身を確認しながら解説文章を作成しました。

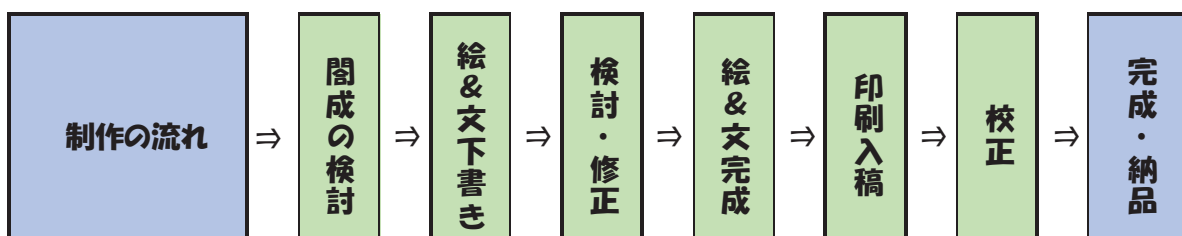
★小学生の絵画募集

秩父市と荒川区では絵本の巻末に「未来の地域の姿」を表現することにしました。「地域の未来の自然」や「未来の街の姿」をテーマに、地域の小学生を対象に絵画を募集し、その中から数点を掲載しました。

募集方法は、秩父市では、地域の教育委員会の協力を得て、夏休みの課題にさせていただきました。荒川区では、制作委員会の知り合いの校長先生にお願いしました。

★印刷入稿

出来上がった原画はすべてをスキャニングしてデータ化し、色調整を行います。その後、制作委員会の確認を経て、デザイナーがレイアウトを決定して絵本原稿を完成させます。制作委員会は、その絵本原稿を承認し印刷業者に入稿することとなります。



荒川・秩父 ふるさと絵本 台割(荒川区)

①	⑭	⑮
(扉)	くらしをささえた、さまざまな仕事	
②	⑯	⑰
荒川・秩父の共通ページ	源流から荒川区までの鳥瞰図	毎日の生活・あれやこれや
④	⑵	⑱
【町屋地区】		荒川に根づいた歴史と祭り
⑥	⑶	21
【荒川地区】		子どもたちの遊びと楽しみ
⑧	⑷	22
【尾久地区】		荒川の未来を描いてみよう！
⑩	⑸	24
【日暮里地区】		・奥付 ・スタッフクレジット ・その他
⑫	⑹	
【南千住地区】		

本文ページサイズ:天地248mm×左右257mm

【活用編】活用方法の検討及び支援

「森里川海ふるさと絵本づくり」は、完成した絵本を地域で活用していくことが大切です。この絵本は参加した人が、「語り部」となって自分の思い出や地域への想いを語るができるのが特徴です。地域の人たちがふるさとの森里川海を世代を越えて語り合えるツールなのです。これが、地域の自然の恵みを見つめ直し、その恵みを生かし続けられる持続可能な地域づくりを目指すきっかけとなるのです。

この絵本を、どのように語るのか、聞かせるのか、その基本的な読み聞かせ技術を習得することがこの絵本を活用するうえで重要です。秩父市、荒川区ともに、絵本専門士を招いて、読み聞かせ講習会を開催しました。



そして、完成した絵本を地域にお披露目をしましょう。この絵本づくりには地域の多くの人たちが関わったはずです。そのお礼と、絵本の存在をより多くの人たちに知っていただく機会を積極的に作り出すことが大切です。

秩父市と荒川区では「ふるさと絵本発表会」を開催し、環境省から「つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト」と『森里川海ふるさと絵本』の趣旨を説明し、絵本の内容を披露したうえで、地域の皆さんに絵本を贈呈しました。

完成した絵本は、自治体の協力を得ながら学校、図書館、地域ふれあい館などに配布し、各館で貸し出しを行うほか、教育、イベントなどで活用する予定です。既に、小学校の教材として活用したい、図書館や保育施設で読み聞かせ会を開催したい、との問い合わせも寄せられています。

【環境省から秩父市へ絵本贈呈】



絵解き

⑥ 明治 21 年には、隣の東京板紙会社（現日本製紙）の他、明治 40 年にかけて、隅田川（旧荒川）の水運を利用した隅田川貨物駅ができました。続いてガス・電気・石油会社が建ち並び、この地域は、近代産業発祥の地と言われています。

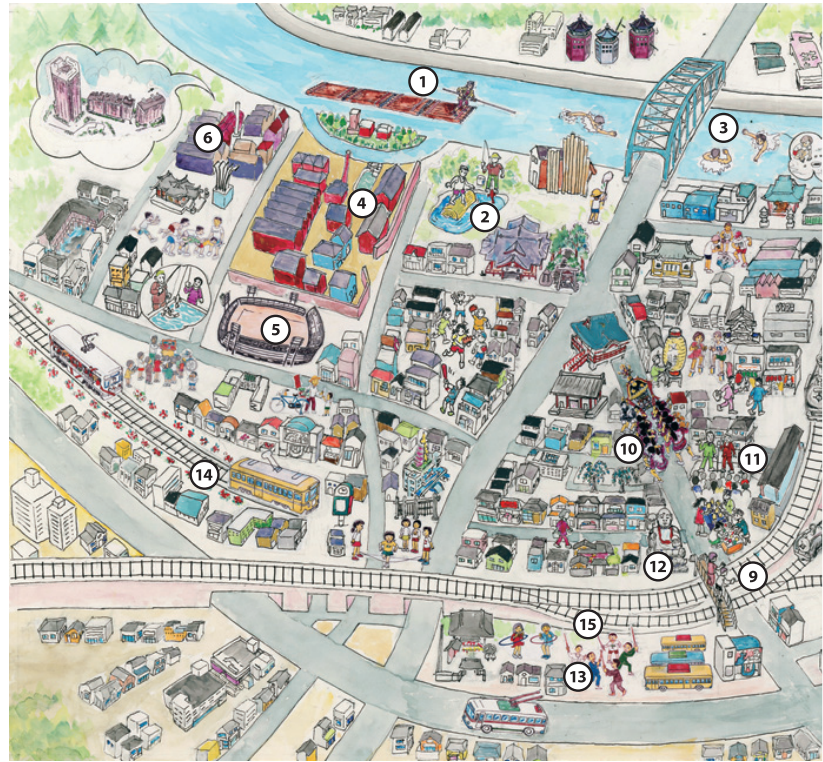
④ 煉瓦塀に囲まれた大きな敷地に建物があります。広さは、すぐ下の野球場も含めて、なんと東京ドームの 2.2 倍です。今は、学校やマンションが建っていますが、隅田川（旧荒川）の水運が利用できる立地から、明治 12 年、日本初の毛織物（ウール）工場、千住製絨所が誕生しました。

⑤ ロッテ・オリオンズの東京球場として、冬になると、内外野椅子席の上に、巨大な野外スケートリンクができて、若者で賑わっていました。「楽しかった！」

⑭ 都電荒川線は、ここが荒川区スタート地点の三ノ輪橋駅です。ここからまた、早稲田に向かって出発します。

⑬ 下の明治通りには、トロリーバスが通っています。電車の様に、パンタグラフから電気を取り入れて走っていました。ガソリン車ではなかったので、公害は出ませんでした。でも交通量が増えるにつれて、なくなっていきました。

① 隅田川（旧荒川）をご覧ください。筏で、材木が運ばれていますね。昔は、秩父から水運を利用して木材が盛んに運ばれていました。ここ千住大橋付近は材木屋さんが沢山あって、賑わっていました。でも、自動車の発達によって、だんだん見なくなっていきました。



⑫ コツ道りで、気になるお地蔵さんが居ますね。通称、「首切り地蔵」と言い、江戸時代には、鈴ヶ森と並んで、小塚原の処刑場の跡なんです。

⑩ ここ、コツ道りには、素盞雄神社の御神輿が居ます。6 月初め頃に行われる祭礼の本社神輿は雄壮で、屋根の鳳凰が地面についてしまうくらい、横に振られて進みます。

⑮ ここには、むかし遊びが 6 種類描かれています。どんな遊びがわかりますか？

「《森里川海ふるさと絵本》ありがとう あらかわ—荒川区—」の中の
「南千住地区」の読み聞かせポイントを紹介します。

③ 千住大橋の近辺をご覧ください。皆さんのお爺ちゃんやお婆ちゃんが子供の頃は、こんな具合に、隅田川で泳げるほど、川の水は綺麗でした。水練場などもあったそうです。

② マルタ乗りして遊んでいる少年がいますね。つりを楽しんでいる人もいますね。昔は、秩父屋さんの貯木場でした。今この場所は、天王公園となり子供達で賑わっています。

⑬ 汐入と足立区千住町の間に汐入の渡しがあり、平成 2 年頃まで運行され、主に鐘ヶ淵紡績会社の職員たちが利用していました。

⑦ ここは、日本石油・大日本紡績・鐘ヶ淵紡績・東京毛織・東京紡績・日本石油・東京瓦斯の工場でした。50 年程前には住宅は川沿いに一部に有っただけで、殆どが工場です。

⑧ 貨物列車が石炭を満載し南千住駅に差し掛かりました。そうです、常磐炭鉱から運ばれてきました。すぐ隣は貨物専用の隅田川駅です。貨物引き込み線のすぐそばまで運河が作られ、船に積み替えて隅田川を下り、工場地帯へと運ばれて行きました。



⑪ コツ道りの脇では、何やら漫才が始まったようです。何と、ここは、東京漫才発生の地で栗友亭という寄席がありました。漫才・落語で、今は師匠といわれる人たちも、ここで勉強していたそうです。※コロンビアトップライト、内海圭子・好江、橘屋円蔵、三遊亭円楽など ちなみに、入場料は、通常で 70 円、有名芸人の出る時は、150 円でした。

⑨ 線路に架かる橋の上で、何やら 2 人の子供が、何か投げていますね。石炭の小石を汽車の煙突めがけて投げて遊んでいました。そして、機関車が通過した時の、煙はすごかったんだそうです。この橋は、通称「どんだん橋」と言って、渡る時に「ドンドン」と音がして、子供たちの人気スポットだったそうです。

ふるさと絵本づくり活動プログラム

		前年度	今年度					次年度	場所・参加者・支援者					
		日程・規模・その他	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
準備	①	体制づくり ・事前説明・勉強会 ・制作委員会の立ち上げ												
	②	キックオフイベント												
	③	五感体験アンケートの実施 ふるさと普話を語る 懇話会												
調査	④	五感体験アンケート結果の項目分けとカードづくり												
	⑤	聞き書き会												
	⑥	五感体験アンケートマップ作り												
制作	⑦	街歩き調査会												
	⑧	史料・文庫・写真など制作資料収集												
	⑨	絵本の制作 ・絵本の構図構成の検討 ・絵本原画の制作 ・絵本の文章の作成 ・小学生の絵画募集												
	⑩	絵本の編集・印刷												
	⑪	活用方法の検討及び支援 ・読み聞かせ技術研修 ・学校・図書館等へ配布 完成披露イベント												
定例会・臨時例会														